

レンゲ等を加害するアルファルファタコゾウムシが 避難地域等に広く分布している

福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付け実証(県による実証研究)

研究課題名 アルファルファタコゾウムシの分布実態調査

担当者 松木伸浩・根本知明

I 実証技術の解説

1 要旨

避難地域等の除染後農地では、地力回復や景観形成を目的にレンゲを栽培する事例があり、飯館村のレンゲでアルファルファタコゾウムシ(写真1)の寄生が確認された。

本種は、マメ科植物を加害する侵入害虫であり、本県では 2008 年に浜通り南部のカラスノエンドウで初めて確認され、宮城県でも 2015 年に広範囲で発生が認められた害虫である。本県では 2008 年以降分布調査が行われていないことから、2016 年に避難地域等における分布調査を行った結果、本種は浜通り地域に広く分布していると考えられた。

- (1) 避難地域等 4 市町村 6 カ所で、アルファルファタコゾウムシの発生が確認された(図1)。
- (2) 飯館村二枚橋の除染後農地で栽培されたレンゲは、激しい食害を受け、花、葉がほとんどないものがあった(写真2右)。

2 期待される効果

- (1) 除染後農地の地力回復、景観形成を目的にレンゲを栽培する際の参考資料となる。

3 活用上の留意点

- (1) 本種は幼虫・成虫ともにマメ科植物を摂食し、5~6 月頃に被害が目立つ。
- (2) 耕種的防除法は、新成虫が発生する前(4 月下旬頃)までに耕耘によるすき込みを実施する。
- (3) 防除薬剤は、レンゲ(緑肥用)のアルファルファタコゾウムシに対してプロチオホス粉粒剤が使用できる。また、マメ科牧草のゾウムシ類に対して MEP 乳剤が使用できる。

II 具体的データ等



写真1 アルファルファタコゾウムシ
上:成虫、下:幼虫、スケール:2mm

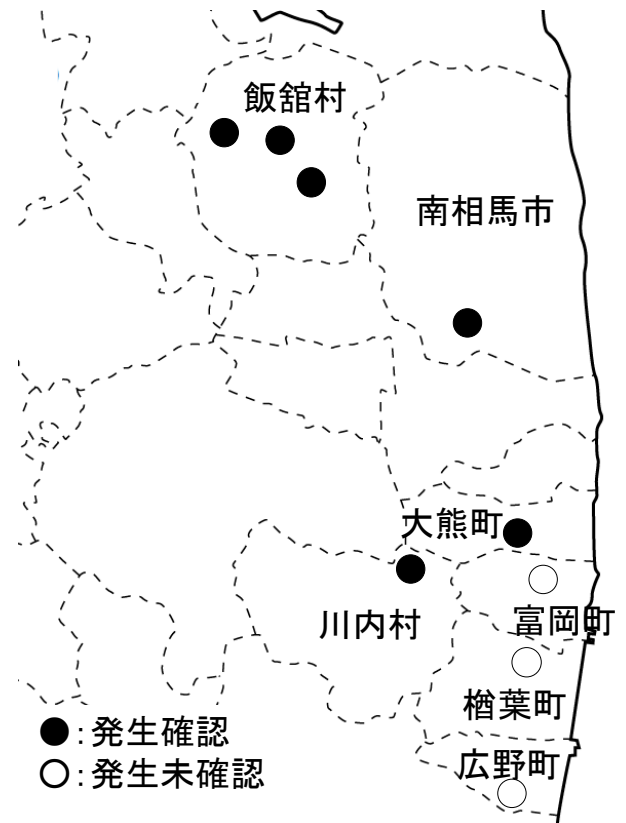


図1 アルファルファタコゾウムシの分布調査

調査時期: 2016年6月上旬

調査対象: レンゲ、シロツメグサ等のマメ科植物

調査方法: バットへの叩き落としにより実施



写真2 レンゲの被害状況

ほ場: 飯舘村二枚橋、採取: 2016年6月2日、スケール: 5cm
左: ほとんど食害がない。中央: 花がなく、葉の食害が目立つ。
右: 花、葉がほとんどない。

III その他

1 執筆者 松木伸浩

2 実施期間 平成28年度

3 活用した技術のポイント(参考文献・資料等)

(1) 平成20年度病害虫発生予察特殊報第2号(福島県病害虫防除所)

(2) 平成27年度病害虫発生予察特殊報第1号(宮城県病害虫防除所)